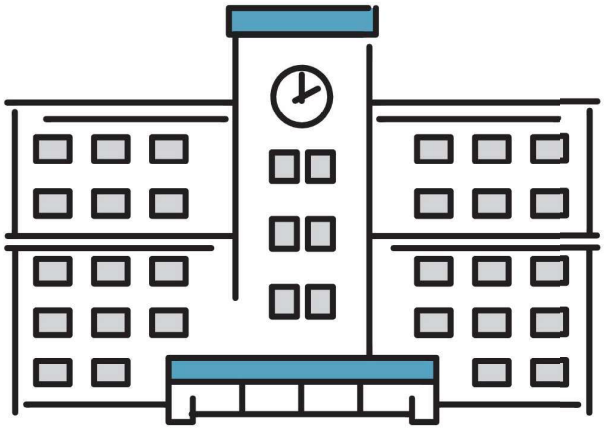
2年1組
『「探究」する学びをつくる』図解
最優秀賞

ハイ・テック・ハイとは？



・アメリカの公立高校の名前
・探究学習で世界的に有名

デザイン指針

1.公正性に向けての
プロジェクトであること

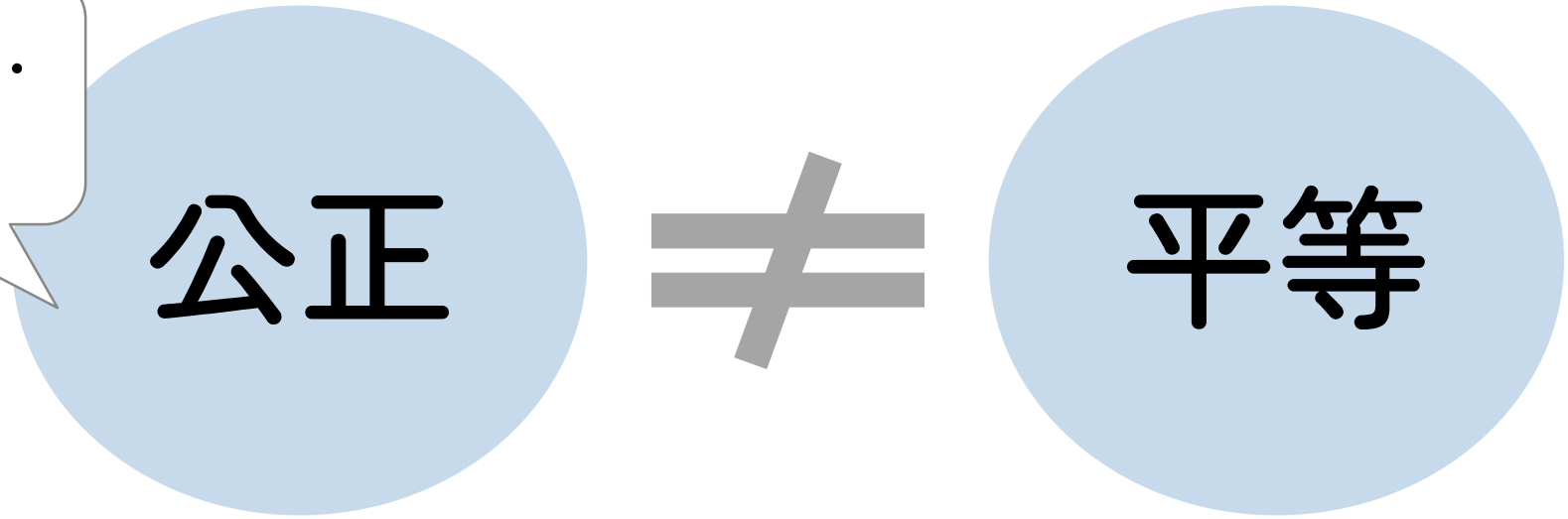
2.学び手中心の
学びであること

3.意味があり、美しい学びを
すること

ハイ・テック・ハイのデザイン指針

1.公平性に向けてのプロジェクトであること

ハイ・テック・ハイ



違いに応じて
同じ結果になるように導く

すべての人に
同じものを与える

ハイ・テック・ハイのデザイン指針

2.学び手中心の学びであること

学びを通して

自分とは何か

という問いに向き合う

学び

学びを定着させる
ための循環

振り返り

コミュニティ内で人として成長する

ハイ・テック・ハイのデザイン指針

3.意味があり、美しい学びをすること

子どもたちの特徴

- 自分のすることを誇りに思う
- 自他を尊重する
- 力強く正確で美しい学び

＝

クラフトマン
職人

自分
友達
学校・先生
学校の外世界

にとって意味があり、美しい学び

学校は子どもたちとの才能と情熱が出会う場所

人の才能＝天然資源

教育に求められること

才能が現れる状況を
作り出すこと

現在の学校の目的

学校の成績＝知性

▼

その他の才能を無視

学校は子どもたちとの才能と情熱が出会う場所

エレメントとは　*自分の才能と情熱が出会う場所*

自分の才能と
情熱が出会う
場所

＝

自分にとって、
それをするのが
自然に
感じられること

プロジェクト型学習で
エレメントを探す支援をする

プロジェクトベースド？プロブレムベースド？

P roject
roblem

B ased

L earning

プロジェクトベースド
＝プロジェクト型学習

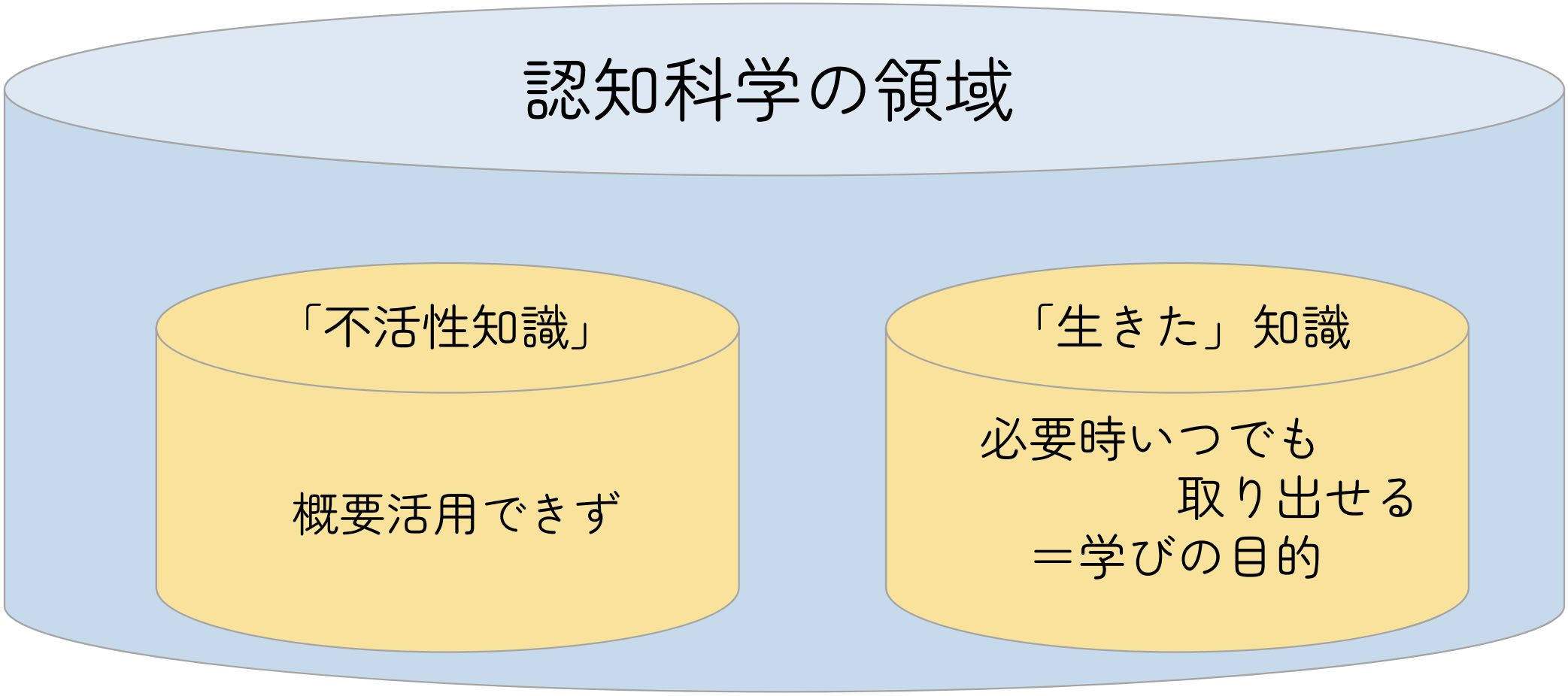
「つくる」が中心

ハイ・テック・ハイ

プロブレムベースド
＝課題解決型学習

「解決する」が中心

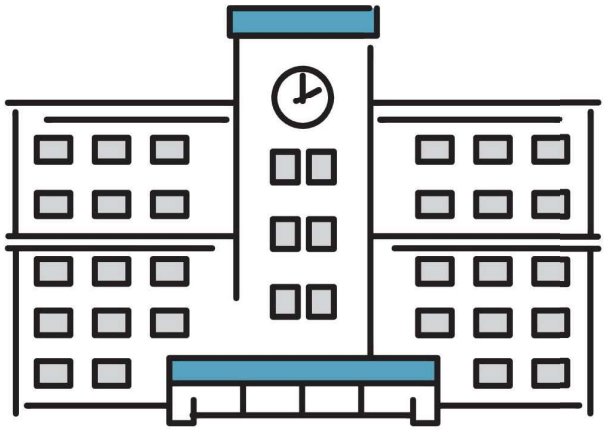
あとで生きない知識



最高のアウトプットをデザインする

「生徒たちが発表成果物・制作物・出版物を作って、
一般公開するまでの一連のプロジェクトを、
デザイン・計画・実行することで得る学び」

ハイ・テック・ハイのPBL



最高のアウトプットをデザインする

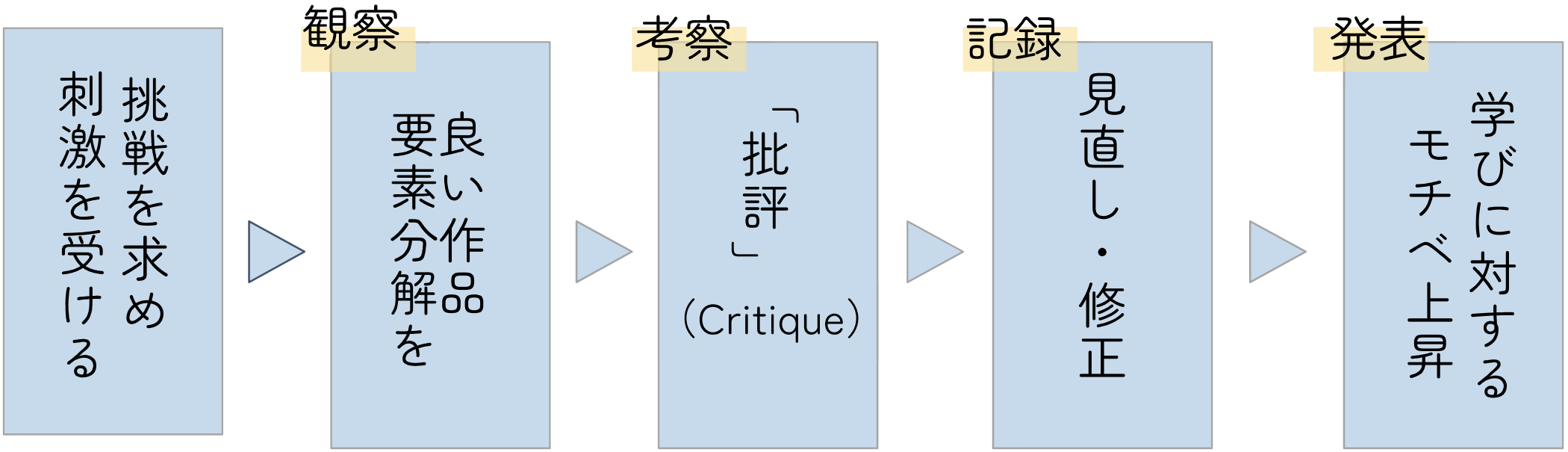
ロン・バーガー

エクセレンスの倫理を養う

≒美しい展示に向け最大限努力

プロジェクトを通じて養おう！

美的感覚とハンズオン



「エクセレンスの倫理を育むプロセス」

プロジェクトにおける９つの要素

複合的かつ多様
革新的思考促進

開始

➜３ページ後
に詳しい内容

本質的な問い

協力し共有

創造性　概念　質問
計画　　提案

アイディア

プロジェクトにおける９つの要素

手順

作品分解

批判

批評

理解し応用

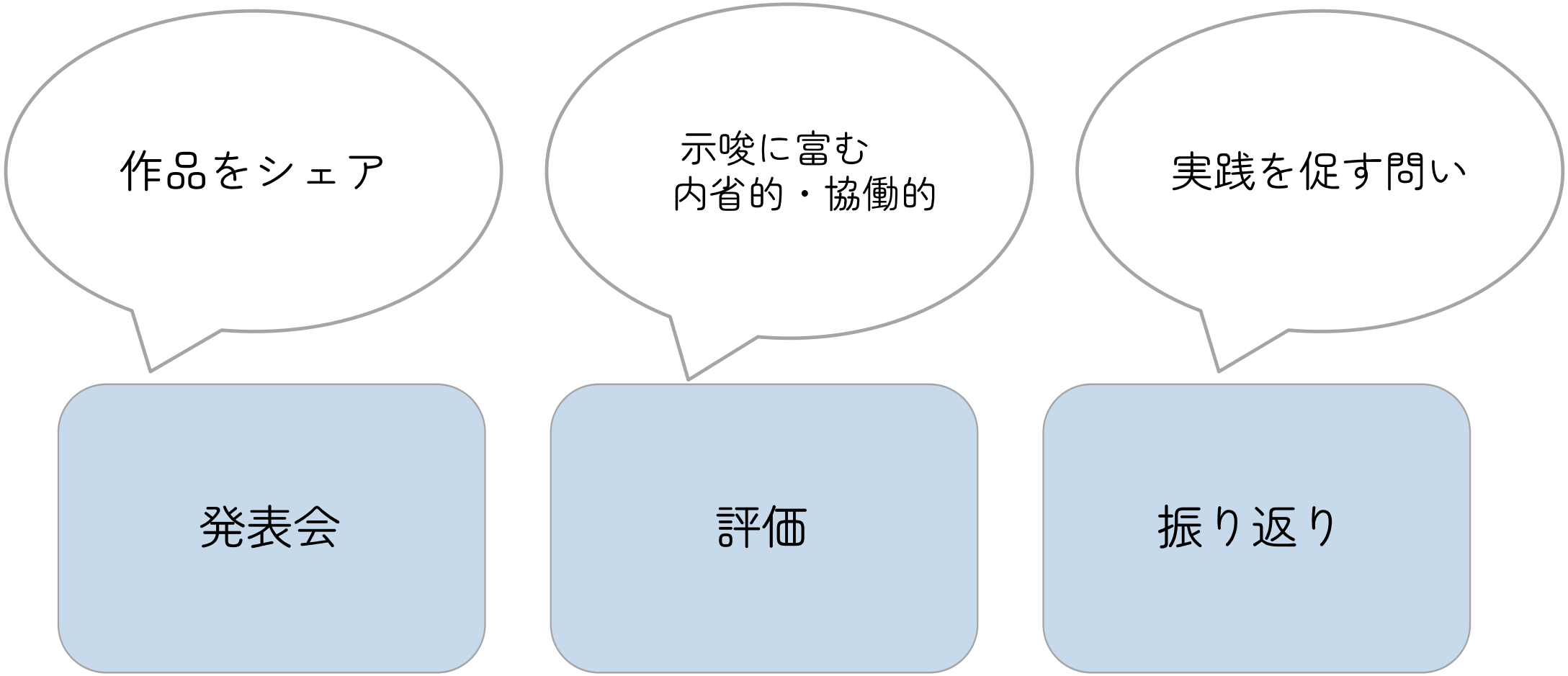
学業における
マインドセット
確率！

スキル
知識
態度

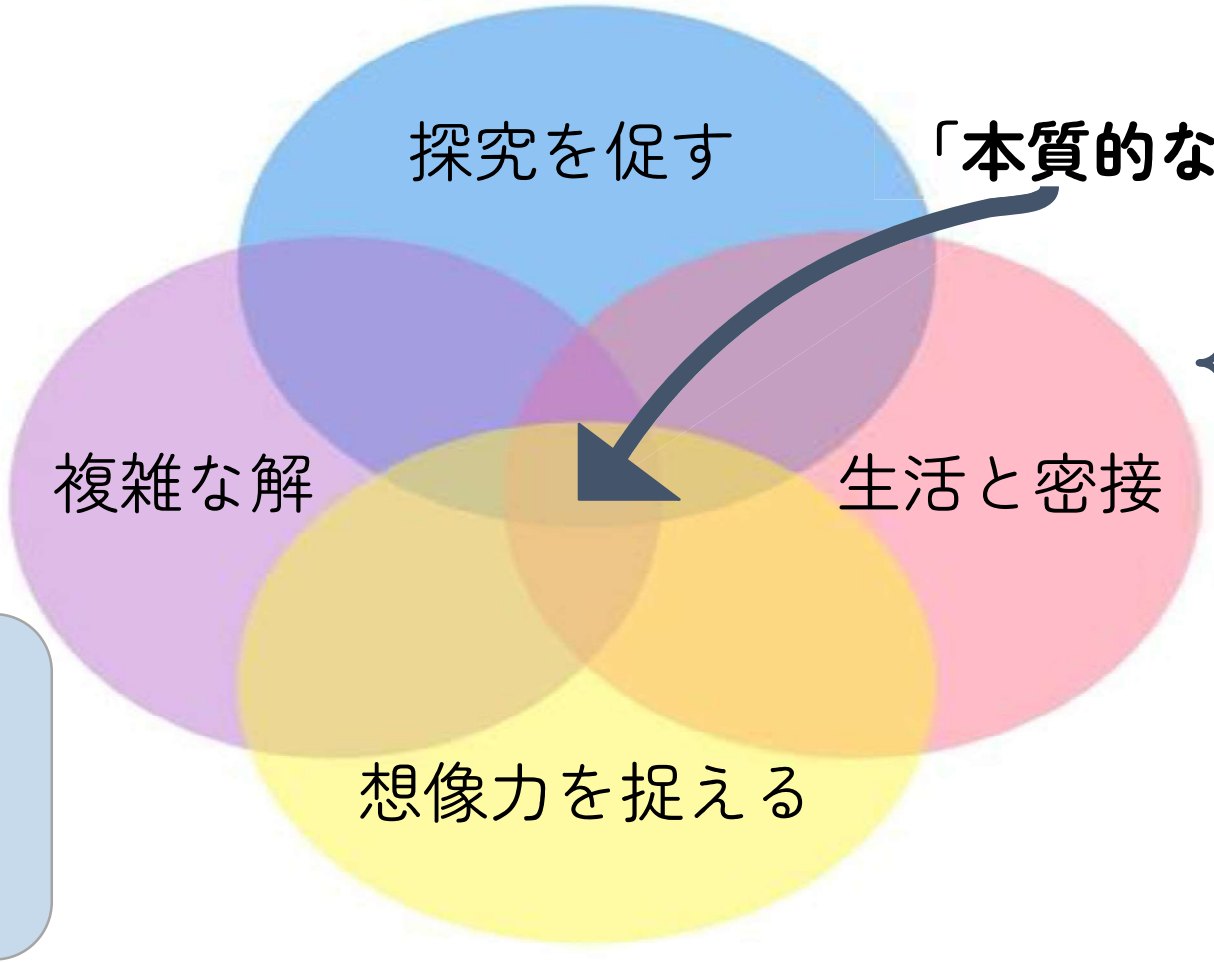
繰り返し炸裂
意味深く美しい
作品創作

修正

プロジェクトにおける９つの要素



「本質的な問い」とは？



唯一無二 ✘

取捨選択 ○

オープンエンド
多様な思考
さらなる疑問

クラフトマンであれ

ハイ・テック・ハイの校舎はアートで飾られている

美術館のようだ！

生徒の作成したアート

↓ 繋がるのは…

生徒が目指している
クラフトマン

クラフトマンであれ

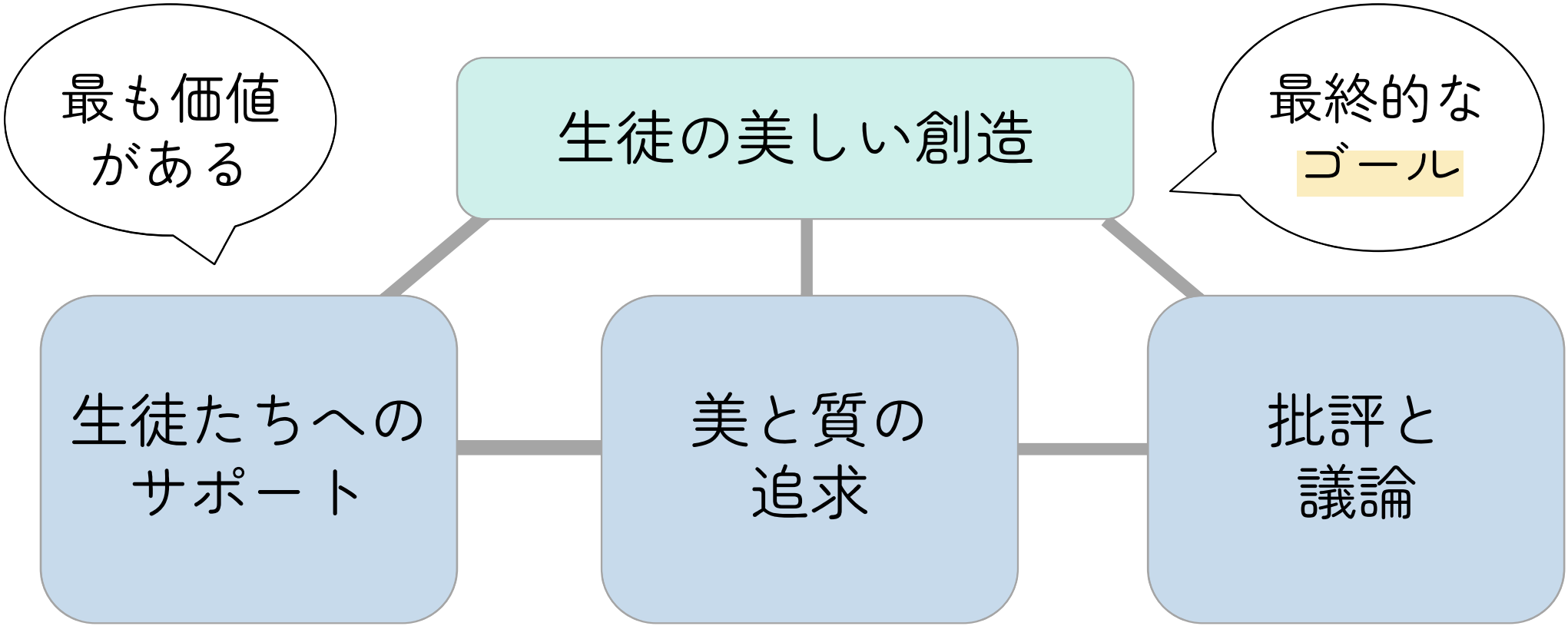
ハイ・テック・ハイのクラフトマンの要素

活動に自信を　　自身も他人も　　力強く正確な学習を

この要素を子どもたちが得られるような教育を行っている

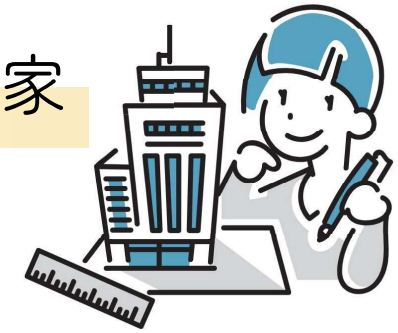
クラフトマンであれ

Beautiful Work (美しい仕事)のための仕組み



クラフトマンであれ

芸術家



建築家

科学者

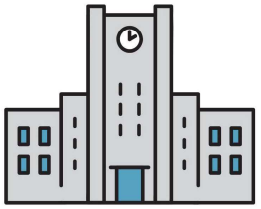
「美のセンス」を表明

同じように…

美学的・芸術的なビジョンを文化とするために毎日議論

エクセレンスの倫理を養う

文化



学校

家族

地域

エクセレンスに
対する
倫理観

エクセレンスの倫理を養う

悪い　　文化＝環境　　良い

態度　×
努力　×

文化に合わせて
態度と努力を
調整してしまう

態度　○
努力　○

エクセレンスの倫理を養う

悪い　　文化＝環境　　良い

中傷
怠慢

エクセレンス
美

子どもたちを「エクセレンス・美」に向かわせる
＝「Beautiful Work(美しい仕事)」の鍵は「文化」

▶エクセレンスの倫理を養う

ハイ・テック・ハイで培うもの

努力を
惜しまない力
Grit

質を
高め合う
態度

ポイントは「発表・展示」「批評」の仕組みの中に

批評は当たり前の行為

「批評」という言葉の解釈

辞書

批判的・断定的

「審判」「非難」
「不承認」

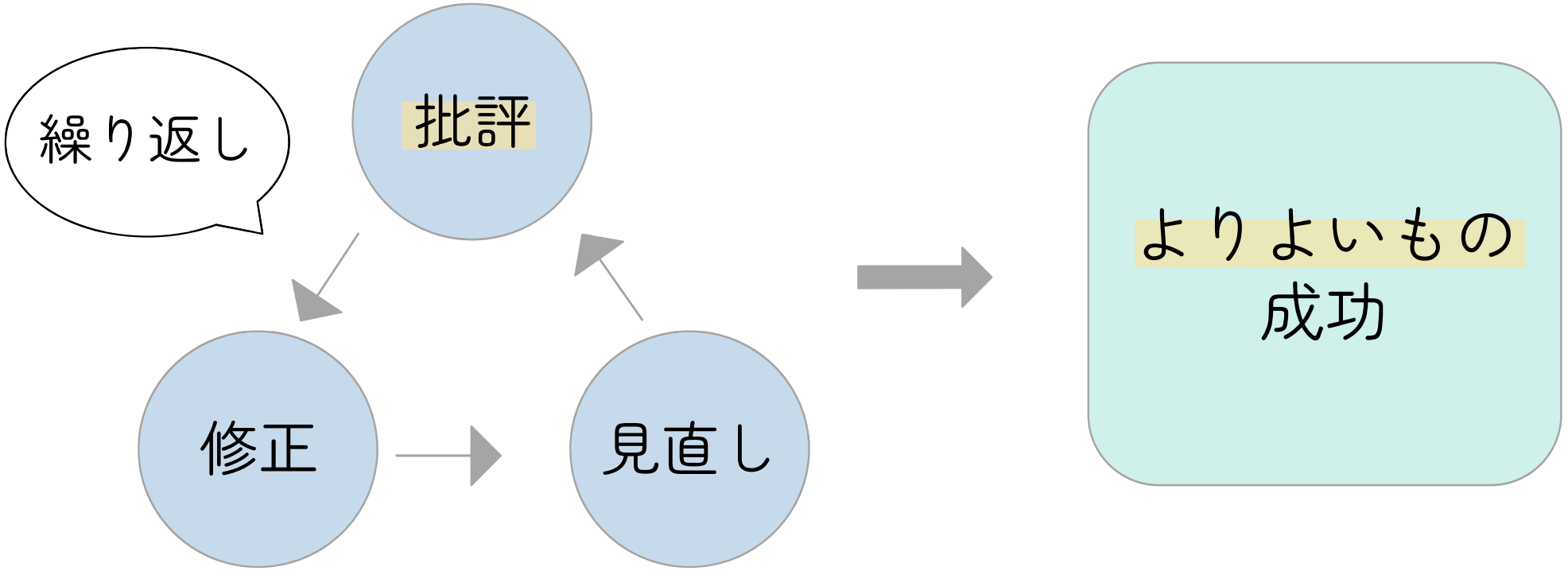
ハイ・テック・ハイ

肯定的

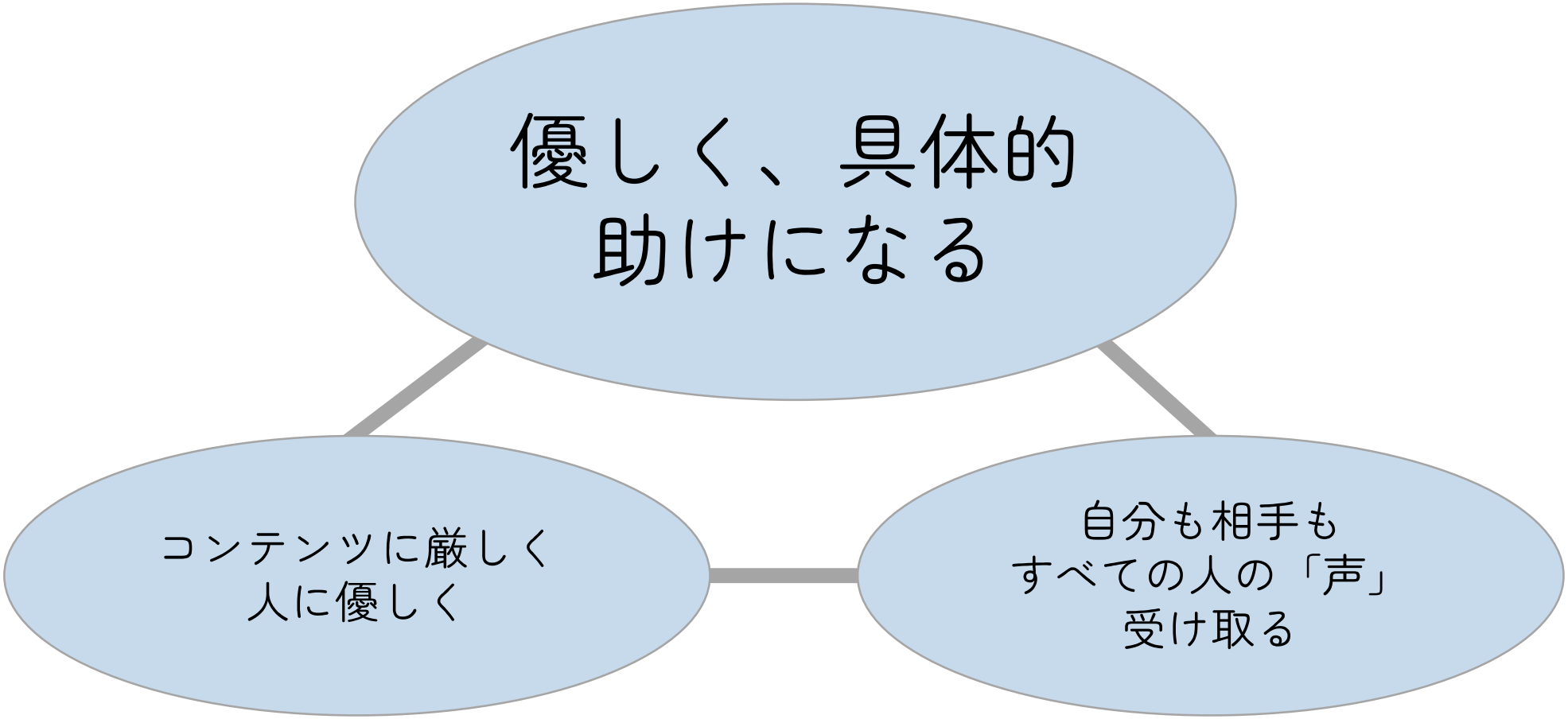
成功の必須の条件
「ポジティブ」

批評は当たり前の行為

批評はよりよいものをつくるための「プロセス」



批評のプロセスを支える３要素



批評の規範

C
Create and Maintain an Environment of Trust
「思いやり」や「協力」を実現する「批評」を指し示す

A
Allow Students to See the Real You
失敗から何を学んだのか身をもって示す

R
Respond to the Diversity in the Room
すべての生徒の「声」が聞き入れられる

E
Encourage and Expect Growth from All Students
すべての生徒の成長を推奨・期待

公正の概念

建設的な批評の価値

批評がない状態

成長できない
＝学業がうまくいかない

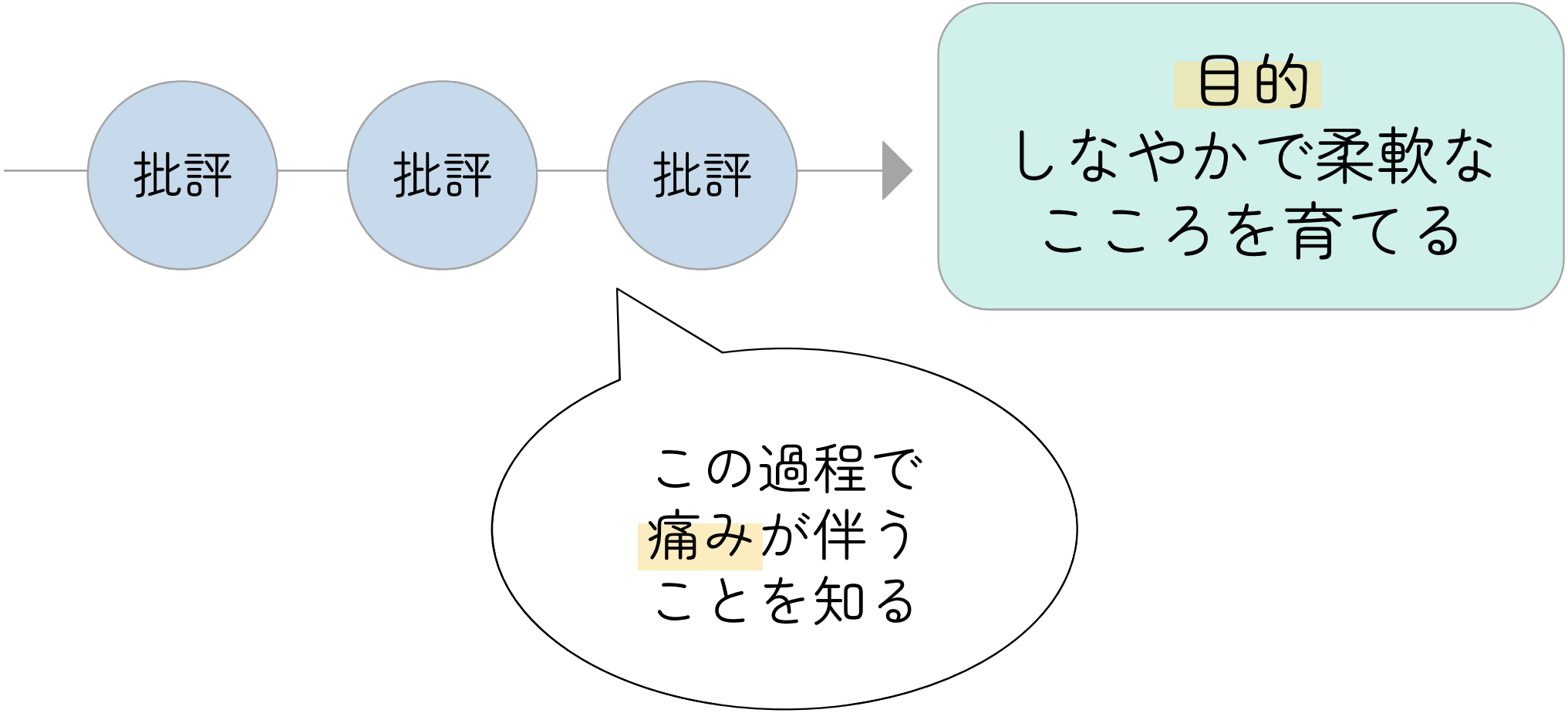
批評がある状態

自分自身が大切だと
感じる心ができる

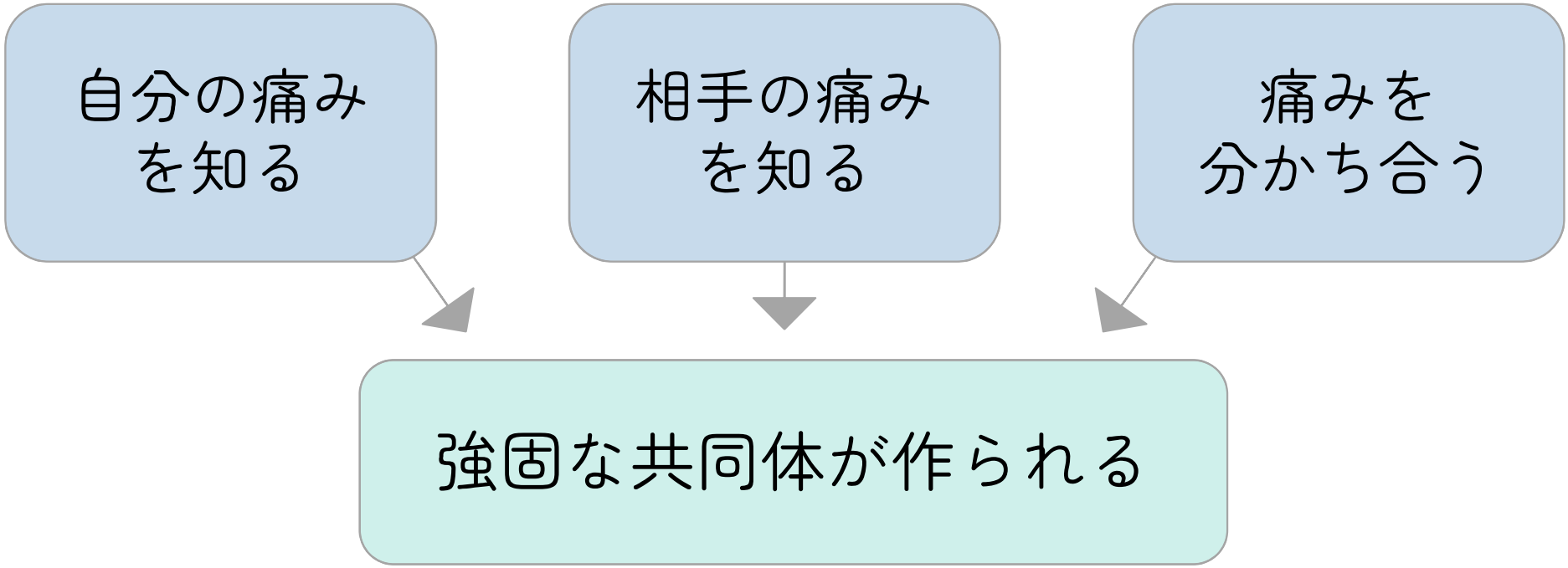
「公正の第一歩」

様々な視点が持てる批評グループであるべき

しなやかで柔軟なこころを育てる



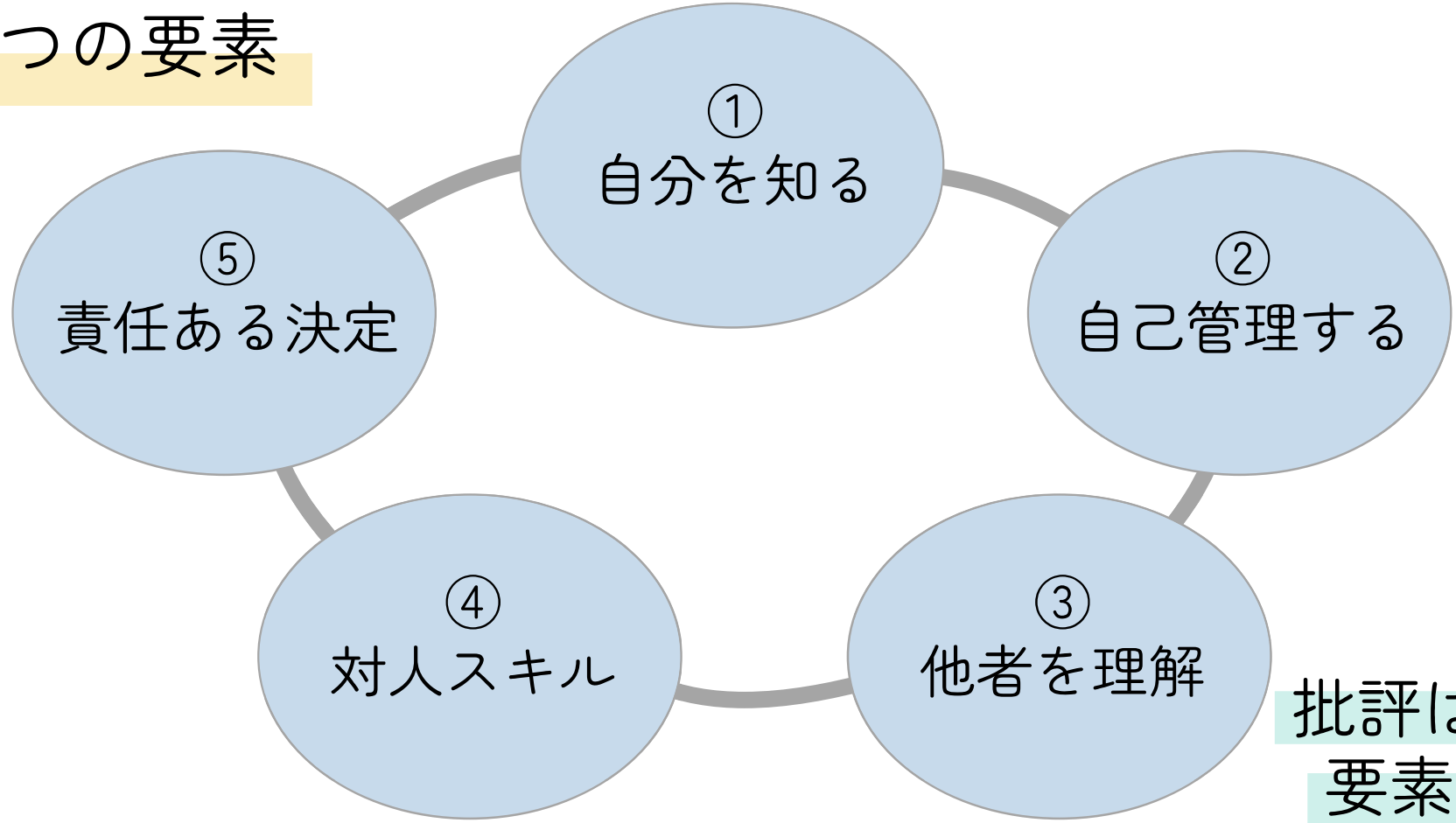
しなやかで柔軟なこころを育てる



馴れ合いではない本当の意味での「優しさ」が生まれる

アメリカの道徳教育の現状について

５つの要素



批評は５つの要素を育む